

## クロスケの家で実施したライトトラップに集まった蛾類を中心に

当麻 喜明

(トトロのふるさと基金 評議員)

### 要旨

2012年7月21日から22日にかけて行った「第一回 クロスケの家夜間生物調査」の主としてライトトラップに集まった蛾類について評価した。蛾類は不明種を含み38種観察され、この地にふさわしい観察方法が手探り状態だったことを考えると、調査方法の正しさ及びクロスケの家周辺の生物相の豊かさを期せずして証明することとなった。

蛾類は成虫になるのが春夏であったり、秋に羽化するもの、冬に現れるもの、越冬するものというように様々なので、夏場の一回の調査だけで、この地の生物相を明らかにすることは出来ない。しかし、生態系のピラミッドを考えたときに下層に位置する蛾類（あるいは昆虫相）がこれだけ観察できたことから、この地の自然が豊かに営まれていると考えられる。

**キーワード**：光に集まる生物；ライトトラップ；里山里川；夜間生物調査

### はじめに

クロスケの家で夜間の生物調査を実施することになり、一般的には蛾類など光に集まる夜行性の昆虫などを観察できる機会に、二つ返事で参加させていただくこととなった。ライトトラップ等の観察手段が初めてのこともあり結果に興味があったが、後述のとおり多種多様な生物相を確認するに至った。集まった生物は標本等にはせず克明な同定可能な写真記録に残し、朝になって生物が分散するのをそのまま見送った。

### 調査方法

クロスケの家（母屋）の正面縁側部の雨戸に平行するようにしてプロジェクタースクリーンを設置し2基のビデオ照明（500W型）を照射した。またスクリーン下部に白い布を設置し紫外線ランプ（ブラックライト10W型）をセットした。母屋裏の作業小屋の柱を利用し白い布を設置し、ビデオ照明（500W型）を照射した。いずれも2012年7月21日20時から22日4時頃まで30分毎に観察した。

集まった蛾類等は詳細に撮影し、後にインターネット図鑑等で同定を行い、不明種は詳しい方に同定を依頼した。同時に集まった蛾類以外の生物についても種名を明らかにした。

ここではまとめないが、クロスケの家周辺の樹液の出る木や用水路の岸にホタルやコウモリなどを見つける観察も併せて行った。

## 結果

表 1 確認された蛾類

種名	科	亜科
ギンスジトガリホソガ	カザリバガ	カザリバガ
ベニモントガリホソガ	カザリバガ	カザリバガ
マツカレハ(イラガspかも)	カレハガ	カレハガ
オオナミガタアオシャク	シャクガ	アオシャク
ヨモギエダシャク	シャクガ	エダシャク
フタビスジナミシャク	シャクガ	ナミシャク
クチバスズメ	スズメガ	ウチスズメ
シバツトガ	ツトガ	ツトガ
モンキクロノメイガ	ツトガ	ノメイガ
エゾギクトリバ	トリハガ	カマトリバガ
チャハマキ	ハマキガ	ハマキガ
キハラゴマダラヒトリ	ヒトリガ	ヒトリガ
ミツボシキバガ?	ホシバルハキバガ類	
カレハチビマルハキバガ	マルハキバガ	マルハキバガ
ホソオビキマルハキバガ	マルハキバガ	マルハキバガ
アカシマメイガ	メイガ	シマメイガ
キベリトガリメイガ	メイガ	シマメイガ
ツマグロシマメイガ	メイガ	シマメイガ
トビイロフタスジシマメイガ	メイガ	シマメイガ
カラスヨトウ	ヤガ	カラスヨトウ
ウスキミスジアツバ	ヤガ	クルマアツバ
オオアカマエアツバ	ヤガ	クルマアツバ
オオシラナミアツバ	ヤガ	クルマアツバ
シラナミアツバ	ヤガ	クルマアツバ
ソトウスグロアツバ	ヤガ	クルマアツバ
ニセアカマエアツバ	ヤガ	クルマアツバ
エゾコヤガ	ヤガ	コヤガ
クロハナコヤガ	ヤガ	コヤガ
テンモンシマコヤガ	ヤガ	コヤガ
ヒメクルマコヤガ	ヤガ	コヤガ
ウスオアツバモドキ	ヤガ	シタバガ
オオホシミミヨトウ	ヤガ	ホシミミヨトウ
カブラヤガ	ヤガ	モンヤガ
ニセタマナヤガ	ヤガ	モンヤガ
スジキリヨトウ	ヤガ	ヨトウガ
チャオビヨトウ	ヤガ	ヨトウガ
不明種1	-	-
不明種2	-	-

その他ライトトラップ周辺に集まった生物

アカアシオオクシコメツキ チャバネアオカメムシ カブトムシ キイロテントウ  
クワカミキリ ナガゴマフカミキリ ノコギリクワガタ シロジュウシホシテントウ  
トホシカメムシ トウキョウヒメハンミョウ ヤホシゴミムシ  
アミガサハゴロモ アオバハゴロモ コゲチャハエトリ コカゲロウ クロバエ sp.

トトロのふるさと基金 自然環境調査報告書 10: 40-42. 当麻喜明 (2013) クロスケの家で実施したライトトラップに集まった蛾類を中心に

クロオオアリ ミスジトガリヨコバイ サキグロムシヒキ ツマグロキンバエ  
ヨツボシクサカゲロウ ユスリカ sp. ヤモリ

## 考察

今回の報告では、生物の種類を明らかに出来たことで、最初の一步を成したと思われる。今後は、これらの生物の幼虫期の食草を考えたい。今回の調査で確認できた蛾類 38 種が、ごく普通の環境指標なのか、豊かであると評価出来るのかは、経験不足により断定できないが、個人的に新しく発見した生き物も多く、次から次に登場する生き物に、わくわくしながら観察を続けられた。案外このことの価値は高いと思える。そういった意味では、クロスケの家は、まさにたくさんの生き物と共に営まれていると言える。

## おわりに

画像や観察の様子は [Http://toma.ootaki.info/](http://toma.ootaki.info/) のカテゴリー「狭山丘陵の夏」「2012 年 7 月」クロスケの家の夜間生物調査で 5 作にまとめ公開している。

## 謝辞

観察には所沢市立小手指中学校科学部の方たちと蛾類の同定には HP「狭山市の自然」主宰の A T S (鈴木淳夫) 氏に協力いただいた。謝辞を表したい。

## 参考文献 (昆虫の同定に使用)

みんなで作る日本産蛾類図鑑 (2012) (<http://www.jpmoth.org/> 2012 年 7 月 30 日アクセス)

狭山市の自然 (2012) (<http://asuzuki.la.coocan.jp/hp2/> 2012 年 7 月 30 日 アクセス)